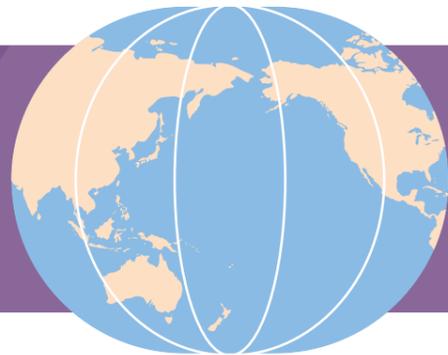


世界で活躍する薬系技官

能力を活かし、薬系技官として海外で活躍するステージもあります。日本を飛び出して、グローバルな視点から日本を見つめなおす、世界の未来を考えるなど、他ではできない仕事も多くあります。



協働する仲間たち

薬系技官とプロジェクトを共にする方々から、外から見た薬系技官の印象などを聞きました。

世界で、また、未来で
何がおきるかを
見極めてみませんか？



インドネシア保健省JICA専門家 医薬品・医療機器安全強化アドバイザーとして赴任しています。薬系技官の仕事は医薬品ではありません。ミジンコから宇宙まで、一般の方、患者や医療・ITの専門家から要人まで、国内案件から外国案件まで様々な仕事があります。私が赴任しているインドネシアは、昨今、G20の議長国（2022年）、ASEANの議長国（2023年）となり、また、10年、20年後のGDPベースで世界5位以内に入ることが見込まれます。さまざまな観点から期待も大きくASEAN加盟国の中でもリード国、最重要国の一つです。期待値の高い大国の保健大臣や、保健副大臣、総局長（日本の局長と同等）と普段から、将来の医薬品・医療機器を含む医療システムについて議論しています。日本で培った経験、獲得した知識をフルに活用し、総じて、日本とインドネシアにとってWin-Winになる方策、ひいては、世界のお手本になる協力関係を目指し活動しています。

皆様も化学・生物・薬学の分野で公務員になり、その経験、知識を総動員して世界で、また、未来で何がおきるかを見極めてみませんか？公務員の仕事はどの仕事にも負けず楽しいこと請け合いです。



インドネシア保健省
JICA専門家
医薬品・医療機器安全強化アドバイザー
佐々木 正大
SASAKI Masahiro

留学制度

世界中の仲間と共に学び、グローバルな視点を養う

国際的な見識を高め、移りゆく世界情勢に対応できる能力を身に着けるため、人事院のプログラムで海外の大学院等（修士課程又は博士課程）に長期（2年間）・短期（半年～1年間）留学できる制度があります。入省後の業務の状況や語学力を踏まえた選考がありますが、留学先や専攻分野は自ら選ぶことができます。薬系技官の場合、直近では公衆衛生学修士や経営管理学修士を取得するべく、米国やスウェーデン等へ留学しています。

医療費高騰や高齢化社会など、日本のみならず世界各国で共通して抱えている課題も多くあります。世界中の様々なバックグラウンドを持つ学生や研究者との交流を通じて、新たな知見・能力を培い、日本の抱える諸課題の解決に向けて取り組むことができるのも国家公務員の魅力です。



ノックンが許されない 薬事行政に携わって

医薬局 医薬品審査管理課
次世代ワクチン等審査推進室
国際新興・再興感染症医薬品等専門官
東 雄一郎
AZUMA Yuichiro
出向元
医薬品医療機器総合機構

私は、医薬品の審査や各種調査業務等の実務を行うPMDAから出向し、薬系技官の方々と共にワクチンや血液製剤の審査に関する業務を行っています。これらは予防接種行政や血液行政とも密接に関係しているため、日々、血液対策課や予防接種課、国立感染症研究所等と協力しながら業務に取り組んでいます。ノックンが許されない薬事行政の司令塔である薬系技官の仕事は、必然的に緻密さが求められるものが多いと思いますが、そこに我々のような実務系の出向者が融合することで、ワンチームとして最高のパフォーマンスを発揮できればと感じています。



AZUMA Yuichiro

都道府県庁から、 医薬局に出向して感じていること

医薬局
監視指導・麻薬対策課 主査
小栗 一男
OGURI Kazuo
出向元
静岡県庁

現在、医薬局監視指導・麻薬対策課でGMP、QMS等を担当しています。これは、医薬品や医療機器等の品質・製造管理の基準を指しており、日々、このような専門用語や略語と格闘中です。

国と県での業務の違いは、国では制度の大枠を考えると、広域的な判断が必要なこと、業界団体との調整等があり、一方県では、現場での事案対応や一人が担当する業務範囲が広いこと等であると感じています。



薬系技官として、様々な薬事の専門的な業務に従事できることは、非常に貴重な経験であり、また大変魅力的であると思い、毎日取り組んでいます。

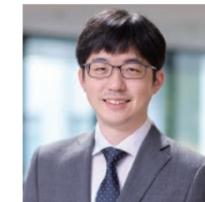
OGURI Kazuo

遠くて近い、“技術系”の仲間たち

医薬局 医薬品審査管理課
化学物質安全対策室
毒物劇物係長
石川 裕介
ISHIKAWA Yusuke
総合職技術系（労働）

私は現在、化学物質安全対策室にて、毒物及び劇物取締法の担当をしております。私の採用区分では、労働系部局を中心に配属されることが多いのですが、縁あって今の部署で仕事をしております。室名の通り、医薬品とは少し離れた部署となりますが、薬系技官のみなさんは、薬学・薬事に関する知識・経験を活かしながらも、自分の専門領域にとらわれず、広い視野で日々の業務に取り組んでおります。

そうした仕事ぶりを見てみると、分野こそ異なりますが「同じ技術系として、負けていけない」という気持ちになり、一層気が引き締まります。



ISHIKAWA Yusuke

事務系職種からみた薬系技官の魅力

医薬局
総務課 企画法令係
亀山 稿也
KAMEYAMA Koya
一般職事務系

私は事務系職種として、薬系技官の多い医薬局で働いています。厚生労働省で所管している医療・健康に関する施策を検討する上では、その分野の専門的な知識が必要であり、日々、厚生労働省における薬系技官の重要性・ありがたみを感じています。

また、薬系技官のポストは、厚生労働省内だけでなく他省庁、自治体、独法等、様々な視点に立てるものがあり、より多様な経験を経てキャリアアップが図れます。



ご自身の持つ専門性を活かし、日本の医療・健康という大きな目的に対して仕事ができることが薬系技官の魅力の一つだと思います。

KAMEYAMA Koya